記者発表資料

平成２９年１１月１７日
岩木川改修１００周年記念事業実行委員会

十三湖水戸口突堤選奨土木遺産記念プレート除幕式を行います

～プレイベント「市浦小学校児童による津軽金山焼陶器貼付も開催」～

「十三湖水戸口突堤」は、地域を苦しめた度重なる水戸口閉塞による浸水被害を解消し、岩木川の治水と津軽平野の発展の礎となった貴重な土木遺産として、昨年９月に土木学会選奨土木遺産に認定されました。このほど、来年の岩木川改修１００周年関連事業として、授与された記念プレートを後世に伝えていくため、石碑に刻み建立することとしました。

つきましては、下記のとおり、石碑（十三湖水戸口突堤選奨土木遺産記念プレート）の除幕式を開催しますのでお知らせします。

また、除幕式に先立ち、地域の偉大な社会遺産を地元の次世代担う市浦小学校児童と一緒に考え、思い出としてつなげていくため、石碑の一部に使用しているタイル（津軽金山焼の陶器）に児童の思いを書いてもらったものを貼り付けるプレイベントも開催しますので合わせてお知らせします。

記

■プレイベント【市浦小学校児童による津軽金山焼陶器タイル貼り付け】

１）日　　時：平成２９年１１月２２日（水）９：１０～１４：０５（昼休み含む）
※全校児童を３班に分け、貼り付け作業を行います。
（午前２回、午後１回）。
２）場　　所：十三湖中の島ブリッジパーク　※別紙－１
（青森県五所川原市十三字五月女萢地内）
３）主 催 者：　岩木川改修１００周年記念事業実行委員会 ※別紙－２

■十三湖水戸口突堤選奨土木遺産記念プレート除幕式

１）日　　時：平成２９年１１月２５日（土）１１：００～１１：３０
２）場　　所：同上
３）主 催 者：同上
４）式典概要：別紙－３

※「岩木川改修１００周年」については、青森河川国道事務所ＨＰをご覧下さい。
（http://www.thr.mlit.go.jp/aomori/river/topics/iwaki100th/index.html）

ＱＲコード

発表記者会：青森県政記者会、建設関係新聞社、津軽新報社

お問い合わせ先

岩木川改修１００周年記念事業実行委員会　事務局
五所川原市　建設部　土木課
五所川原市字岩木町 12 番地　　tel 0173-35-2111
土 木 課 長　　佐々木　秀文（内線 2610）
国土交通省　東北地方整備局　青森河川国道事務所
青森市中央三丁目２０－３８　　tel 017-734-4521（代表）
副所長（河川）　安部　剛　　（内線 204）
調査第一課長　　田村　公仁　（内線 351）

別紙－1

【会場位置図】



『この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の電子地形図（タイル）を複製したものである。（承認番号 平 29東複、第33号）』

【拡大図】



『この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の電子地形図（タイル）を複製したものである。（承認番号 平 29東複、第33号）』

別紙－２

岩木川改修１００周年記念事業実行委員会
委員名簿

NO	職名	氏名	備考
1	五所川原市長	平山（ヒラヤマ）　誠敏（マサトシ）	
2	弘前市長	葛西（カサイ）　憲之（ノリユキ）	
3	黒石市長	髙樋（タカヒ）　憲（ケン）	
4	平川市長	長尾（ナガオ）　忠行（タダユキ）	
5	中泊町長	濱舘（ハマダテ）　豊光（トヨミツ）	
6	西目屋村長	関（セキ）　和典（カズノリ）	
7	つがる市長	福島（フクシマ）　弘芳（ヒロヨシ）	
8	鶴田町長	相川（アイカワ）　正光（マサミツ）	
9	青森市長	小野寺（オノデラ）　晃彦（アキヒコ）	
10	板柳町長	成田（ナリタ）　誠（マコト）	
11	藤崎町長	平田（ヒラタ）　博幸（ヒロユキ）	
12	大鰐町長	山田（ヤマダ）　年伸（トシノブ）	
13	鰺ヶ沢町長	東條（トウジョウ）　昭彦（アキヒコ）	
14	深浦町長	吉田（ヨシダ）　満（ミツル）	
15	田舎館村長	鈴木（スズキ）　孝雄（コウユウ）	
16	青森県県土整備部長	浅利（アサリ）　次郎（ジロウ）	
17	国土交通省東北地方整備局 青森河川国道事務所　所長	佐近（サコン）　裕之（ヒロユキ）	
18	国土交通省東北地方整備局 岩木川ダム統合管理事務所　所長	栗田（クリタ）　信博（ノブヒロ）	

平成30年 100周年 岩木川改修事業

別紙－３

十三湖水戸口突堤
選奨土木遺産記念プレート
除幕式

日時

平成29年11月25日（土）午前11時00分

会場

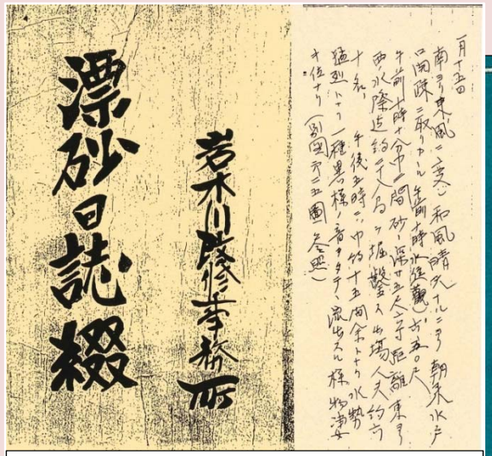
十三湖 中の島ブリッジパーク

（青森県五所川原市十三字五月女萢地内）

式次第

一、開式
一、挨拶
一、来賓挨拶
一、来賓紹介
一、事業経過報告
一、記念プレート除幕
一、閉式

岩木川改修100周年記念事業実行委員会


漂砂日誌

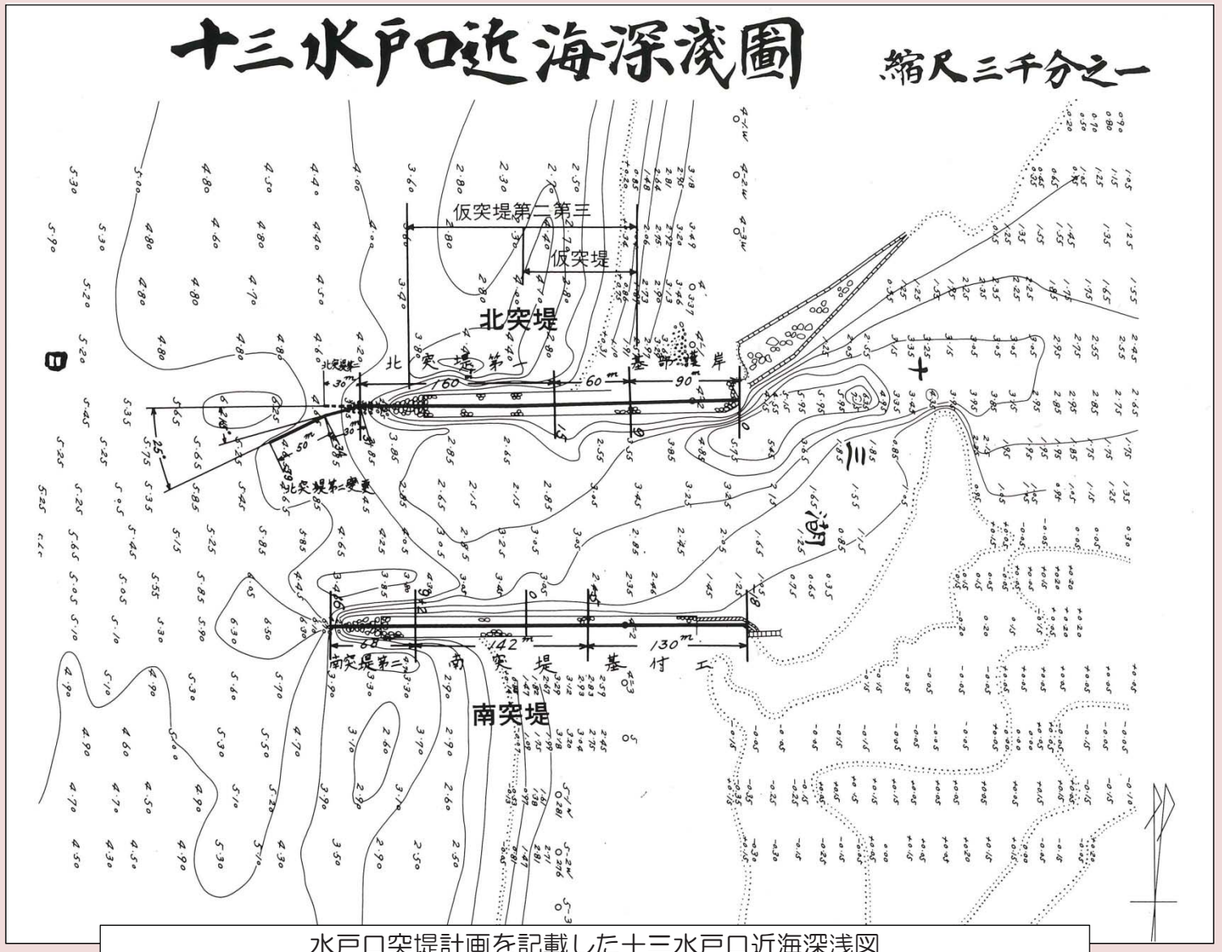
岩木川改修事務所

漂砂日誌

大正７年から１３年までの漂砂を観測した日誌。写真はその一部で、大正１２年１月１５日の閉塞した水戸口の開削作業が記載されています。以下は記載内容。

「南より東の風に変わり、和やかな風で晴天になったので、朝から水戸口の開削に取りかかる。午前１０時の水位は十三湖観測所で６.５尺（約２m）。午前１０時１０分から幅２間（３.６m）、砂の深さ５尺６寸（約１.７m）、距離東より西の水際まで約２８尺（約８.５m）を掘削する。出役人夫は約６０名、午後５時、幅１５間（約２７m）あまりとなって水勢猛烈となり、一種異様の音をたてて流出する様は物凄きくらいなり。」

水戸口付近の地形変化を記載した十三水戸口変形図



水戸口突堤計画を記載した十三水戸口近海深浅図

（参考）

土木学会選奨土木遺産

十三湖水戸口突堤



地域を苦しめた度重なる水戸口閉塞による浸水被害を解消し、岩木川の治水と津軽平野の発展の礎となった貴重な土木遺産

津軽の母と言われる岩木川は、青森、秋田県境白神山地の雁森岳に源を発し、弘前市付近で北に向きを転じて津軽平野に入り、支川平川、後長根川などを合わせ、五所川原市から平坦な低地を流れ、十三湖を経て日本海に注ぐ、流域面積 2,540k ㎡の一級河川です。

この岩木川が日本海に出る河口部は、昔から水戸口と呼ばれていますが、この水戸口が季節風による荒波に運ばれた漂砂によって閉塞し、水位の上昇した十三湖から湖水が溢れ出し、岩木川下流域に大きな浸水被害を度々発生させていました。

この被害を解消すべく、大正 7 年から始まった岩木川改修事業により十三湖周辺の調査測量が開始され、十三湖水戸口突堤は大正 15 年に着工、昭和 21 年に完成し、以後、閉塞による浸水被害は一度も発生していません。

十三湖水戸口突堤がもたらした治水効果と漁業・農業の発展に寄与してきた効果が認められ、平成 28 年 9 月 16 日に土木学会選奨土木遺産に認定されました。

青森河川国道事務所

平成 30 年には大正７年 12 月から始まった岩木川改修事業が１００周年を迎えます。

十三湖水戸口突堤が育んだ恵み

岩木川の治水安全度の向上
十三湖汽水環境の安定
津軽平野の発展

岩木川

囲繞堤

津軽の新田開発は藩政時代から藩主導により大規模に実施されてきましたが、岩木川下流部は低平地であり十三湖水戸口閉塞による水位上昇・逆流、塩害、「腰切田」「乳切田」と呼ばれるほどの極度な排水不良といった難題を抱えていました。

しかし、水戸口突堤の完成により閉塞が解消され、十三湖水位が下がったことから、低湿地帯が畑や宅地として使えるようになりました。

また、十三湖から湖水が溢れることを防ぐため十三湖囲繞堤が整備され、これと同時期に行われた「十三湖干拓事業」としての土地造成事業により、耕作困難であった土地が豊かな実りをもたらす土地となり、日本有数の耕作地帯である津軽平野の発展につながりました。

（参考）



大正 12 年の水戸口閉塞による氾濫区域



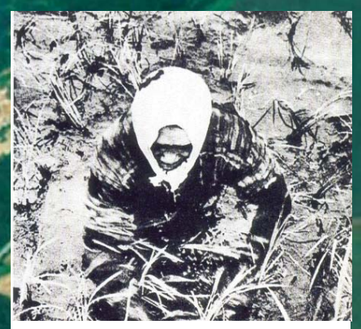
水戸口の閉塞状況（大正 14 年 8 月 2 日撮影）

十三湖水戸口突堤により、海に出ようとする水と海から入ろうとする水の力が程良くバランスし、地域を長年苦しめてきた閉塞が解消されました。

このことにより十三湖の汽水環境が安定し、大和しじみに代表される漁業も安定しました。

岩木川の淡水と日本海の海水が混じることで、うま味の強いシジミ貝が育まれており、平成２８年１２月に農林水産品ブランドを保護する「地理的表示保護制度（ＧＩ）」の対象として「十三湖産大和しじみ」が登録され、一層の地域振興が期待されています。

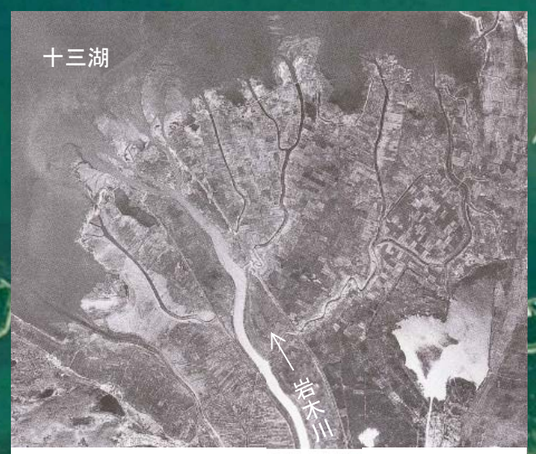
十三湖



底なし”腰切田”の米づくり　昭和期、車力村牛潟松原。腰までつかる湿田地帯



”ぬかり田”での農作業　昭和期、車力村牛潟松兼。湿田からひとりでは畦にあがれず助けを借りる様子



囲繞堤が整備される以前の様子（昭和 23 年撮影）
十三湖の水位が上昇すると防ぐものがなく湖水が溢れ出した

日本海

十三湖水戸口突堤